

## 東濃農林事務所の普及活動状況

令和5年8月

### ぎふ農業・農村を支える人材育成

#### ■就農希望者 就農支援活動の現況

東濃管内では、平成22年に市、JA、農林事務所を構成員とした「就農連携会議」を設置、就農希望者の情報共有を行うなど、就農に向けた支援体制を整えている。昨年度は、管内で12名の独立就農・新規参入に向けた相談があり、このうち2名が新規就農につながった。

本年度は、これまでに3名の新規相談があり、その他、昨年からの継続支援が1名、新規参入による経営開始が2件となっている。

近年、新規就農・参入希望者の経営作目は、水稻、有機農業、露地野菜、施設野菜及び養蜂など多岐に渡るため、対象者毎に、ヒアリングによる現状把握を行い、解決すべき課題を明らかにしたうえで、定期的な会議の中で、就農計画のブラッシュアップを図っている。

当管内は、個人出荷中心で経営方針の自由度が高いため、農業者の意向をいかに具体化できるように留意しながら、引き続き就農支援を行っていく。



【就農支援会議】

### 安心で身近な「ぎふの食」づくり

#### ■直売所 安全で安心な農産物生産に向けて

JAとうとは、8月17日に今年度第4回目となる「みずなみ野菜づくり塾」を開催し、塾生8人が参加した。毎月、市内にある農産物直売所「きなあた瑞浪」への出荷を目指した野菜づくりの講座を開催しており、今回は、野菜の出荷販売に関する座学と秋野菜の作付け準備の現場実習を行った。

また、きなあた瑞浪出荷者協議会は、8月21日に農薬の適正使用に関する勉強会を開催し、東濃農林事務所から情報提供を行った。出席者からは、農薬に関する質問が多数あり、人と環境に配慮した野菜生産に対する関心の高さがうかがえた。

今後も、農産物直売所への出荷者の育成と高品質な農産物の生産に向けて、関係機関とともに支援していく。



【野菜づくり塾の現場実習】

### 地域資源を活かした農村づくり

#### ■飼料用稲 WCS用稲の収量調査の実施

多治見市の新規農業者は、令和4年度に水稻経営部門で就農し、主食用米の栽培を行っているが、更なる面積拡大を進め経営安定に繋げるため、今年度から新たにWCS用稲の栽培に取り組んでいる。

今回は、当地域に適した品種の選定のため実証ほを設置し、農業経営課や県畜産協会と連携し、3品種についてそれぞれ草丈や茎数、重量などの生育調査を行った。

8月29日には、収穫作業を行うとともに同時にロール状に成型しラッピングを行った。

今後は、成型したものを瑞浪市の酪農経営者の農場で保管、発酵させサイレージ化した後、成分分析により飼料としての品質を確認することとしている。



【WCS用稲の収穫作業】